

SDM

System Design and Management

慶應義塾大学大学院
システムデザイン・マネジメント研究科



MESSAGE



“横串の専門家”として、多様な専門家を統合し、
新たな社会を実現する次世代のリーダーを目指す人に来ていただきたい

慶應義塾大学大学院
システムデザイン・マネジメント研究科委員長

白坂 成功



「問いを立てる」能力で、社会的に価値があり、実現可能な目的を設定する

多様な価値観が共存し、様々なものが繋がることで相互に作用している現代社会においては、その全体を静的なものとして捉えていくことはできません。実際、技術の進化は加速度的に早くなり、社会環境変化の激しさは増加しており、思いもよらなかったことが次々と起こっています。このような状況においては、「そもそも何を指すのか」を決めることも簡単ではありません。これまでの延長線上に目的を設定するのによければ、目的設定は簡単です。しかしながら、技術進化により以前は出来なかったことが出来るようになってきました。また、社会環境の変化により、これまでとは違うところを目指すことも必要となってきました。つまり、次世代のリーダーは、目指すべき目的を設定する力、つまり「問いを立てる」能力が必要となっています。しかしながら、全体を俯瞰できなければ、目指す目的も部分最適となってしまいます。また、実現不可能な目的設定をしても、それが実現できなければ価値がありません。実現が可能であっても、提供側目線では、本当に社会に価値あるものになりません。つまり、その実現の仕組みを考慮した上で、社会的に価値のある目的設定をしていくために

は、社会価値と仕組みをあわせてデザインする能力が必要となります。

目的を実現するための構想をデザインし、実行する

将来のあるべき社会を実現するためには、俯瞰的に社会を捉えたいと、目指すべき将来像を見据え、それを実現するための仕組みを定義することが必要となります。このときには、価値提供を担うビジネスやサービスなどと、それを実現する手段であ

る技術や制度や組織などを独立して考えることはできません。これらを統合的に扱うことで、最適なデザインとする必要があります。まさに、複数の専門性を統合することで、これまでは実現できなかった社会を実現できるようになるのです。そして、その仕組みを社会に実現していくためには、多様な関係者との合意形成や、将来像に至る道筋もデザインし、実行していくことが必要となります。この時には、これまで経験のないことを試しながら進めていくことが適切なものもあれば、しっかりと考え、着実に進



めていくことが適切なものもあります。つまり、社会実装にいたる道筋もあわせてデザインすることとなるのです。

変化への対応

今の世の中では、さらに考慮すべきこともあります。COVID-19をはじめとして、世界各地での紛争、さらには自然災害。思いもよらないことが発生することが続いています。VUCAの時代が本格的に到来したと思われる。VUCAとは、Volatility (変動やすさ)、Uncertainty (不確かさ)、Complexity (複雑さ)、Ambiguity (曖昧さ)の頭文字を並べたものです。VUCAの時代とは、将来が現在の延長上ではなく、将来の予測が難しい時代のことをいいます。さらに、世の中は、これまで独立していたものが、ネットワークにつながることで新たな価値を提供する社会であるSociety5.0に向かっていきます。ネットワークで繋がることで、独立していると影響を受けない外部環境の変化が、ネットワークを経由して、影響を与えるようになります。つまり、以前よりも外部環境変化の影響を受けやすい時代となってきています。このような時代では、現在の延長上にはない「問いを立てる」能力が必要なことは間違いありませんが、目的を実現する仕組み自体も変化に対応で

きるようにデザインしておくことも重要となります。変化に対応するためには、その仕組みに影響を与える外部環境の変化を識別し、変化発生時には仕組みのデザインを変化させることが必要となります。また、それだけでなく、変化に対応しやすいデザインにしておくことも重要です。つまり、変化に対応できるようにしておくことで、変化を活用していくということになります。

多様性を活かす教育と研究の実践

慶應SDMでは、2008年の設立当初から、「目的設定」、「仕組みの設計」、「実現のためのマネジメント」を統合的に扱うための教育と研究をおこなってきました。それには「木を見て森を見る」ことが重要となります。そのために、多様な人々との協力により、多視点でものごとを捉えることや、多様な観点からの意見を活用し、統合することを目指しています。そして、これが、多様性を活かすための“横串の専門性”としての能力となります。SDM研究科では、“横串の専門性”として複数の学問分野を横断するために、システムとデザインとマネジメントからなる独自の教育を提供し、分野横断的な研究を積極的におこなっています。幅広い年齢の方々が、世界各国から集まり、専門性が異なる多様な学生、

研究員、そして教員と一緒に学び、より良い社会の実現に向けて議論しています。その過程で、これまでの自分の考えとは異なる意見に触れることもあります。そういった経験から自分をアップデートすることを楽しむことができる人は、SDMに合っていると言えるのかもしれませんが、より良い社会の実現と、“横串の専門性”の習得を目指して、多様な人々と一緒に学び、研究をしたいと考える皆さんの参加をお待ちしています。



INTRODUCTION

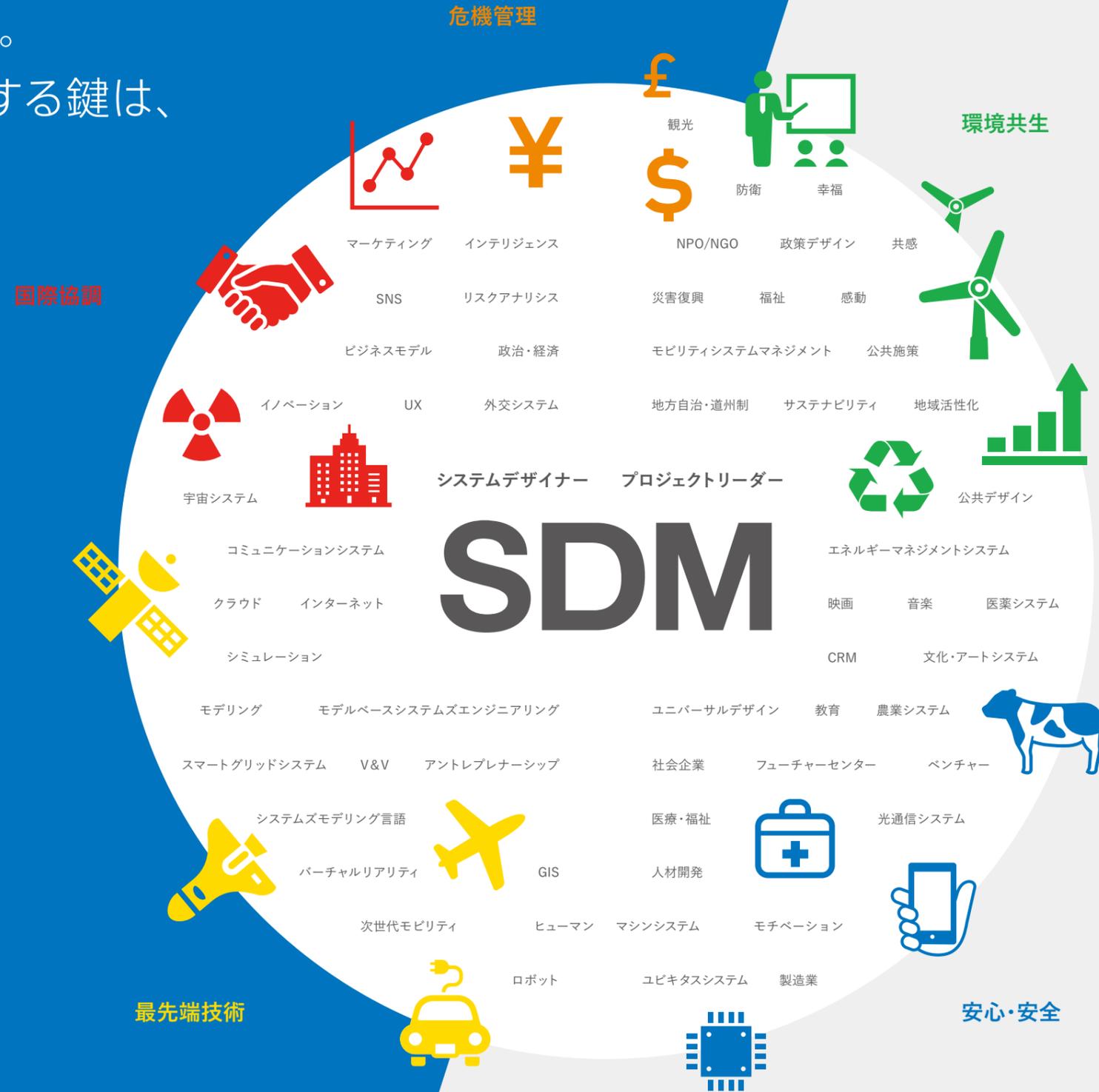
科学技術、社会、人間。
現代の諸問題を解決する鍵は、
システムにある。

現代社会の多種多様な問題を解る 全体統合型学問

慶應義塾大学大学院システムデザイン・マネジメント研究科（慶應SDM）は、科学技術領域、社会領域、人間領域を問わず、広く「システム」という共通の視座から問題解決に取り組む独立大学院です。

現代社会においては、さまざまなシステムが大規模・複雑化し、数々のトラブルや事故、事件、紛争を引き起こしています。そうした問題を解決するためには、部分に特化する専門的学問だけでは不十分です。システムの全体と部分の関係を的確に分析し、解決策を創造的にデザインして、着実にマネジメントする全体統合型の学問 = SDM学（システムデザイン・マネジメント学）とその実践が求められます。慶應SDMはそうした要請に応えるため、2008年に設立されました。

科学技術、環境問題、政治、安全保障、ビジネス、組織、コミュニティ、メディア、交通、教育、人間心理……慶應SDMでは、環境共生、安心・安全、最先端技術、国際協調、危機管理といった社会のニーズを考慮しつつ、あらゆる分野についてシステムの観点から研究と問題解決を行っています。現実世界の課題に挑み、未来を創るための研究と実践の場、それが慶應SDMです。



システムズエンジニアリングと デザイン思考の融合

慶應SDMの問題解決手法には大きく2つの柱があります。1つは「システムズエンジニアリング」。もともとは航空宇宙機器や軍事システムなどの大規模システムを、多数のスタッフにより着実なステップを踏みながら作りあげingことを目的として発展しました。その後、都市、経営、医療、インターネットなどにも応用され、社会領域も取り扱うようになりました。2つめは「デザイン思考」。モノづくりをしながら自由に発想を広げていく開発手法で、フィールドワークやブレインストーミング、プロトタイプを使ったワークショップなどを通じて参加者のクリエイティビティを引き出すことを重視します。従来、システムズエンジニアリングとデザイン思考では考え方が相反すると思われてきました。しかし、システムズエンジニアリングだけではユーザーとの共感やクリエイティビティの飛躍が難しく、デザイン思考だけではシステムティックに具現化する面が不十分です。慶應SDMでは両者を組み合わせることによって大きなメリットが得られると考え、両者を補完し統合する開発手法を構築しました。日本はもちろん、世界でも先進的な取り組みです。

大きな構想を描き、 世界をリードしていく人材を育てる

慶應SDMでは、全体統合型の解決策を提案しながらマイクロのレベルまで解決策を精緻化できるシステムズデザイナーやプロジェクトリーダーの育成を図っています。現実世界の課題に対して大きな構想を描き、さまざまなステークホルダーとの調整を行いながらシステムを創っていくには、SDM学をマスターするとともに多くのスキルを身につける必要があります。エンジニアリング力、問題発掘力、創造力、統合力、コミュニケーション力、マネジメント力。こうした能力を備え、世界をリードしていく次世代リーダーを輩出するために、慶應SDMでは多様なプログラムを用意しています。



学生の受け入れ方針 (アドミッション・ポリシー)

修士課程では、現代の大規模・複雑な諸課題の解決に資する革新的な技術システムのデザインとエンジニアリングに関する研究をおこなうことを通してこれを実践できることを目指す人、現代の多様な社会システムの問題解決策や、プロジェクトを成功に導くリーダーシップ及びマネジメントに関する研究をおこなうことを通してこれを実践できることを目指す人を受け入れます。学位にふさわしい人材を育成するため、民間企業・官公庁・諸団体等で活躍されている実務経験者(若手・多年経験者)や大学卒業後の進学者など、幅広い分野の方々を受け入れます。多様な学生と共に積極的に学び、そして社会で活用していくために十分な資質、能力、意欲を備えているかどうかを、総合的に判断して選考をおこないます。

博士課程では、現代の大規模・複雑な諸課題の解決に資する革新的な技術システムのデザインとエンジニアリングに関して高度な学術的研究をおこない、研究者や社会的実践者として各分野に貢献することを目指す人、現代の多様な社会システムの問題解決策や、プロジェクトを成功に導くリーダーシップ及びマネジメントに関する高度な学術的研究をおこない、研究者や社会的実践者として各分野に貢献することを目指す人を受け入れます。学位にふさわしい人材を育成するため、民間企業や官公庁でご活躍されている実務経験者(若手・多年経験者)をはじめ、修士修了後の学生を含めた世代を超えた幅広い分野の方々を受け入れます。修士課程相当の学力・研究力を備え、自ら研究を計画・実行し、そして専門家として社会で活用していくために十分な資質、能力、意欲を備えているかどうか、入学後に研究をすすめるための準備がおこなわれているかを、総合的に判断して選考をおこないます。

教育課程の編成・実施方針 (カリキュラム・ポリシー)

修士課程では、コア科目として、戦略的システムエンジニアリングの方法とコミュニケーションスキルを含めた総合的なマネジメント能力を習得し、“実学”の科目「デザインプロジェクト」に取り組んでもらいます。このほかに世界的な広い視野を獲得していただくための様々な科目が用意されています。修士課程(システムエンジニアリング学)では、主として技術システムのデザインに関わる分野について、2年間(標準)にわたり研究に取り組み、その成果を国内外で発表するなどして、修士論文としてまとめます。修士課程(システムデザイン・マネジメント学)では、主として社会システムの問題解決に関わる分野について、2年間(標準)にわたり研究に取り組み、その成果を国内外での発表を通じて外部の専門家からの評価も得ながら、博士論文としてまとめます。博士課程(システムデザイン・マネジメント学)では、主として社会システムの問題解決に関わる分野について、3年間(標準)にわたり研究に取り組み、その成果を国内外での発表を通じて外部の専門家からの評価も得ながら、博士論文としてまとめます。

ADMISSION

POLICY

DIPLOMA

CURRICULUM

題解決に関わる分野について、2年間(標準)にわたり研究に取り組み、修士論文としてまとめます。

博士課程では、各自の必要な科目(特にコア科目等)を学ぶために修士課程の科目を受講することが可能となっています。博士課程(システムエンジニアリング学)では、主として技術システムのデザインに関わる分野について、3年間(標準)にわたり研究に取り組み、その成果を国内外での発表を通じて外部の専門家からの評価も得ながら、博士論文としてまとめます。博士課程(システムデザイン・マネジメント学)では、主として社会システムの問題解決に関わる分野について、3年間(標準)にわたり研究に取り組み、その成果を国内外での発表を通じて外部の専門家からの評価も得ながら、博士論文としてまとめます。

どの学位においても、SDM研究科はMIT、Montclair State University、TU Delft、INSA、Politecnico di Milanoなどとの連携により、日本にいながら、海外の著名教授陣の講義を受講できます。また、これらの大学とは積極的に交換留学をおこなっています。SDM研究科が対象とする問題は大幅広いので、様々な関係者の指導を仰ぎながら研究を実施し、論文としてまとめていきます。

学位授与方針(ディプロマ・ポリシー)

修士、博士ともに学位には「システムエンジニアリング学」と「システムデザイン・マネジメント学」があります。

修士(システムエンジニアリング学)は、コア科目およびプロジェクト科目を学び、そのほかに世界的な広い視野を獲得するための科目を学んだのち、主として技術システムのデザインに関わる分野について修士論文として研究をまとめることで、学問を修めることを意味します。修士(システムデザイン・マネジメント学)は、コア科目およびプロジェクト科目を学び、そのほかに世界的な広い視野を獲得するための科目を学んだのち、主として社会システムの問題解決に関わる分野について修士論文として研究をまとめることで、学問を修めることを意味します。

博士(システムエンジニアリング学)は、主として技術システムのデザインに関わる分野について学術的な論文が専門家に評価される、あるいは自らが作り上げたシステムが専門家に評価され、その研究成果を博士論文としてまとめることで、学問を修めることを意味します。博士(システムデザイン・マネジメント学)は、主として社会システムの問題解決に関わる分野について学術的な論文が専門家に評価される、あるいは自らが作り上げたシステムが専門家に評価され、その研究成果を博士論文としてまとめることで、学問を修めることを意味します。



知識と体験、両面からアプローチし、
能力を広げていく。

慶應SDMでは、SDM学の学問的基礎や専門分野の知識を学ぶとともに、現実の問題解決に取り組むカリキュラムを通じて実践の体験を積んでいきます。知識と体験を組み合わせることによって、システムを深く理解し、的確に構築・マネジメントしていく総合力を身につけられるようになっています。

政治・経済・ビジネス系



システムズエンジニアリング・ 技術社会システム系

環境共生・安全・人間系

修士課程 学習スケジュール(春入学)

	1年次		2年次	
	春学期	秋学期	春学期	秋学期
必修科目	SDM 序論 D-Pro	SA&I SV&V	PM	
専門科目	RI 16 単位以上		LI 32 単位以上	
修士研究	テーマ 発表会	中間 発表会 1	中間 発表会 2	修士論文 審査会
			テーマ 発表会	

知識と体験を統合することで、システムに取り組む総合力を高めていく。それが慶應 SDM のカリキュラムのコンセプトです。

修士課程では、まず必修のコア科目「システムデザイン・マネジメント序論」「システムアーキテクティングとインテグレーション」「システムペリフィケーションとバリデーション」「プロジェクトマネジメント」を通じて、SDM 学のベースとなるシステムズエンジニアリングの考え方と方法論を学びます。

また、システムを構築するうえでの数学的基礎を理解するために「システムデザインのための統計とデータ処理」を、多くのの人々と協働していくうえでの基本的スキルを身につけるために「コミュニケーション」を、それぞれ履修することが推奨されています。

SDM 学の基礎を学びながら、並行して自分の興味や関心に従って専門科目を履修し、専門性を深めていくことができます。個別分野のシステムを扱う一般の専門科目と、複数の分野を横断的に捉える推奨俯瞰科目があり、さまざまな分野に向かって自分の知識を同心円のように広げていけるようになっています。

一方、慶應SDMでは実践的体験を重視しており、修士課程の学生は1年時の必修科目である「デザインプロジェクト」で現実の課題にグループで取り組みます。そして、「特別研究科目」でさらなる実践的研究を行い、その結果を修士論文にまとめます。

また、専門的研究に多くの時間を使って研究能力を磨く「リサーチインテンシブコース」(RI)と、すでに専門的能力を有する社会人を対象として講義履修に比重を置く「ラーニングインテンシブコース」(LI)の2コース制をとっており、経験とニーズに応じてコースを選ぶことができます。

後期博士課程は専門的な研究を中心に行う課程です。SDM 学の基本を共有するために、コア科目やプロジェクト科目などの受講を強く推奨しています。

CURRICULUM

修士課程では、まずシステムズエンジニアリングの基礎と基本的スキルを習得します。そして、それをベースとしてさまざまな分野のシステムについて専門的に学んでいきます。全体に通底する物の見方・方法論を身につけつつ、各分野の多種多様な事例や解決策を学ぶことで、さまざまな知識をつなぎ、真に役に立つ知恵へと昇華させていくことができます。

知識をつなぐ。

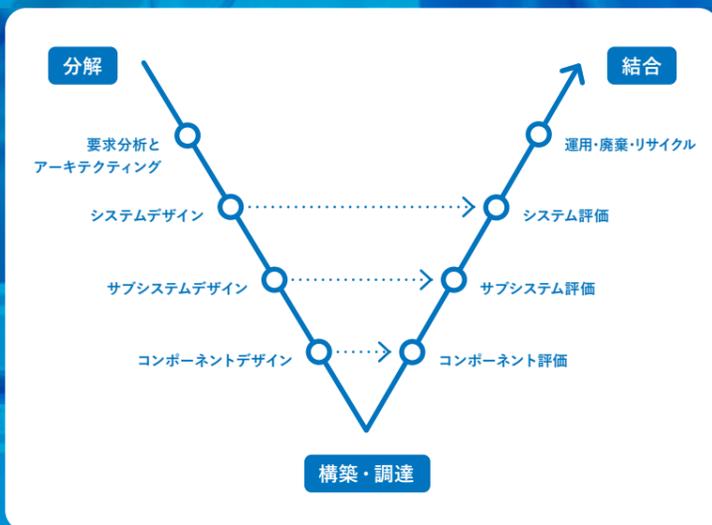
修士課程に入った学生は最初にシステムズエンジニアリングの重要な概念であるVモデルについて徹底的に学びます。

Vモデルでは「分解」と「統合」によってシステムを構築していきます。Vの左側が分解、右側が統合です。大規模・複雑なシステムを、サブシステムからより小さな単位へと順次分解していき、全体から詳細までのデザインが終了したら、システムを順に統合していきます。Vの左から右に向かう矢印は、デザインの各レベルに対応して検証 (Verification) と妥当性確認 (Validation) を行うことを表しています。

Vモデルは全体と部分の関係性を捉えるための大きな枠組みとして活用でき、科学技術領域、社会領域、人間領域の幅広いシステムの開発に応用できます。Vモデルをベースとすることによって、別種のシステムや複合したシステムの開発も行えるようになります。

Vモデルの基礎知識を習得した後は、さまざまな専門科目を履修していきます。Vモデルという共通の枠組みを通じて、ばらばらだったさまざまな知識をつなぎ、自分の中で体系化していくことができます。

Vモデルは「分解と統合」、「デザインと評価」が重要であることを表しています。慶應SDMでは、Vのはじめに要求分析とシステムアーキテクティングがあることを強調します。地球環境・社会環境から他社・顧客まであらゆるステークホルダーからの多様な要求を確実に定義し、情報共有して、システムの全体像をアーキテクティングしたうえで、Vモデルに基づく分解と統合、デザインと評価(検証と有効性確認)を行っています。



先導者達の知恵に学ぶ。 SDM 特別講義



大規模・複雑化した現代のシステムに挑むには、書物のうえの知識や日々の体験だけでは足りません。SDM特別講義は、現代社会の最前線で優れたシステムを成功裏に創りあげた先導者達のさまざまな知恵—システムデザイン・マネジメントのグッドプラクティス—を学ぶ場です。経済界、政界、科学技術界など、各界の第一人者を招き、膝を交えて議論を戦わせることができます。現代の大規模・複雑システムと格闘した先導者達の内に蓄えられた知恵と人間性から何もかもを吸収する貴重なチャンスです。

過去の実施例(肩書きは当時のもの)

株式会社丸井グループ 代表取締役社長 CEO 青井 浩 氏
「丸井グループの共創サステナビリティ経営」

カゴメ株式会社 常務執行役員CHO(最高人事責任者) 有沢 正人 氏
「毎年進化するカゴメの“生き方改革”とこれからの人事制度の在り方
～組織をさらに強くするためのカルチャーの醸成のためには～」

株式会社ポーラ 代表取締役社長 及川 美紀 氏
「コロナ禍での企業戦略 We Care More. 世界を変える、心づかいを。」

公益財団法人結核予防会 理事長 尾身 茂 氏
「新型コロナ これまで、これから」

東京大学先端科学技術研究センター 専任講師 小泉 悠 氏
「ロシア、日本、国際システム」

三島食品株式会社 代表取締役社長 末貞 操 氏
「いつのまにかマーケティングしてたのかな」

住友生命保険相互会社 取締役 代表執行役社長 高田 幸徳 氏
「住友生命が取り組む『ウェルビーイング(=よりよく生きる)』とは」

株式会社ポーダレス・ジャパン 代表取締役社長 田口 一成 氏
「社会を再構築するソーシャルビジネスの作り方」

吉田篤生会計事務所 所長・税理士 吉田 篤生 氏
「経営と生命のシステムに学ぶデザインとマネジメント」

一般社団法人サーキュラーコットンファクトリー 代表理事 渡邊 智恵子 氏
「衣類を『ごみ』から『資源』に ～繊維の廃棄物から『紙』を作り活用する～」

社会人学生にも学びやすく。

慶應SDMには、社会人として仕事しながら通っている学生も大勢います。そうした学生も学びやすいよう、さまざまな工夫を行っています。必修科目は平日ではなく土曜日に開講されています。また、平日は19時以降に開講されている科目もあります。多くの授業をビデオに収録し、アーカイブ教材として保管しています。e-learningはそうした教材をインターネット経由で事後に視聴し、単位の取得を行える仕組みです。履修申告した授業を遠隔地での学習や自宅での復習のために視聴できます。ただし、キャンパスに来ることなく、オンライン受講だけで修了することはできません。



CURRICULUM

慶應SDMでは、さまざまな分野のシステムについて単に知識を得るだけでは終わりません。新しいシステムを提案し、その成果を検証することを重視しています。修士課程の学生は「デザインプロジェクト」や特別研究科目で現実の課題に取り組み、実践経験を積むとともに、学んだ知識を、体験を通じて自分の血肉にしていきます。

現実の課題に立ち向かう。

基本から実践へ。 「デザインプロジェクト」



修士課程1年時の必修科目であるデザインプロジェクトは、「システム×デザイン思考」という独自のアプローチを用いながら、社会に全く新しい価値や価値の変化をもたらすプロダクトやサービスを創出するための手法と考え方を実践的・体験的に学ぶプロジェクト型の講義です。

プロポーザと呼ばれる企業や自治体が抱える課題を、様々な手法を駆使しながら解決する過程で、「見たことも聞いたこともないが説得力がある」解決策を生み出すための、イノベティブに思考する力を鍛えます。世の中の誰一人正解を知らない、という課題の解決にグループで取り組むことの大変さと面白さを深く味わうことができます。

「システム思考×デザイン思考」を体験

デザインプロジェクトではコア科目で学んだシステムズエンジニアリングやシステム思考を実践するとともに、デザイン思考のプロセスと手法を実体験の中で学びます。デザイン思考はクリエイティブなデザインの実現を目指す開発手法で、人々の行動を観察するオブザベーション、グループによるブレインストーミングやワークショップ、実際にモデルを作りながら人々の共感を高めていくプロトタイピングを重視します。慶應SDMではVモデルに従ってデザイン思考のプロセスと手法を独自に整理して

おり、従来のデザイン思考よりシステムティックでイノベティブな方法を学ぶことができます。グループで提案した新しいシステムは、さらに修士論文や政策・新規事業・起業にもつながっています。

2024年のプロポーザと課題

 KODANSHA	株式会社講談社 雑誌のように“面”で、伝えたい価値観や世界観を最大限にブランディングするにはどうしたらよいか？
 Science	株式会社サイエンス フィンパブルを活用した未来の習慣をデザインし、より快適で豊かな社会を実現するにはどうしたらよいか？
 SB Technology	株式会社坂東太郎 恵まれた自然と、科学・教育の街つくばで、自社保有資産を活用して子どもにより良い地域を手渡すにはどうすればよいか？
 SpaceBD	SBテクノロジー株式会社 公共向けビジネスにおいて本当に求められているサービスとは何か？
 三菱食品	Space BD 株式会社 宇宙を活用したBtoCサービスはどのような形であれば成立するのか？
 山口県	三菱食品株式会社 食品流通におけるデジタルマーケティング、ビッグデータ分析とその活用の独創的なアイデアとは何か？
 山口県	山口県 中山間地域で、不便さを感じながらも日々の暮らしを楽しみ、生き生きと生活をするアイデアとは何か？

ラボに参加し、実践的研究を論文にまとめる。 「特別研究科目」



修士課程の研究の中心は特別研究科目の「システムデザイン・マネジメント研究」「プロジェクトデザイン・マネジメント研究」です。学生は研究室またはラボに参加しながら、指導教員の下で2年間(標準)にわたって研究に取り組みます。

研究が単なる分析にとどまることはありません。世の中を良い方向に変えるソリューションをシステムとしてデザインし、それを社会実装し、さらに評価することが求められています。

研究の成果を修士論文としてまとめた上で、修士論文審査会での発表と質疑応答を経て学位が授与されます。SDMで得た知見と体験の集大成とすることが期待されます。

研究事例・ゼミ活動

AI時代におけるアートの役割を考える

生成AIを代表とする、近年急速に広まっている最新技術は、これまで人間が社会で担ってきた機能を十分代替すると予測されます。そんな時代において、「人間の真の役割とは?」「生きるとはどういうことか?」という問いの重要性が増しています。その答えを追求するために、HOLISTIC BEING DESIGN LAB(新妻研究室)では、古来から続く伝統的技法や思想体系など、学術研究で主に採用されている自然科学とは別の観点からものごとを捉え直すという取り組みを行っています。その一環として「AI時代におけるアート(芸術)の役割を考える」と題した場を開きました。元来人間が持つ内的要求から表出していると考えられる「アート(芸術)」について、「AIには代替できない人間の本来の機能となりうるのか?」「社会における役割とは?」など、長年バツハ研究を行っている新妻准教授を中心に、ゲスト講師や学内外の方々で議論しました。今後はアート以外のテーマでも同様の会を開催していく予定です。(新妻研究室)



自動運転トイレ車両による 観光地の独立型公衆トイレの代替可能性の研究

人口減少などを要因に厳しい状況となっている水道インフラの持続可能性への貢献を目的とし、自動運転トイレ車両による観光地の公衆トイレの代替可能性についてコンセプトレベルにおける経済的な実現性評価を実施しました。山梨県北杜市と宮崎県延岡市を対象に市街地から離れた観光地にあり、周囲に水を使う建物が無く単独で水が供給されている公衆トイレの実態調査や行政へのヒアリングをもとに公衆トイレと自動運転トイレサービスのコストモデルを設定。コスト比較により置き換え可能な組み合わせを確認。加えて課金収入や災害対策費の活用によるコスト回収方法も検討。自動運転車両によるインフラ置き換えの経済性判断の一つの考え方を示しました。(山形研究室)



多様な知恵を集結して最先端の技術を社会実装する

私のゼミには学部を卒業してすぐ入学した新卒生と企業に在籍しながら入学した社会人学生とが所属しています。出身学部も、基礎学力や知識・経験も多種多様な者が共に学び合うというSDMの魅力を最大化するために、ゼミ運営には工夫を凝らしています。学生を一堂に集める通常のゼミは平日の夜や週末に実施し、加えて新卒生向けに最先端のAIを学ぶ勉強会を平日の昼間に実施しています。さらに各学生の都合に合わせた一対一での研究指導を毎週実施しています。修士研究の例として、ブレイン・マシン・インタフェース(BMI)を用いた訓練システムのデザインを紹介します。脳卒中後のリハビリテーションとして脳波計測を用いた訓練方法が有力視されているものの、訓練が単調なため継続性に課題がありました。SDMのシステム×デザイン思考で解決策を見出し、一人で楽しく継続できる訓練システムを実装しました。多様な学生が共に考える場と、SDM独自の研究方法論が生み出した研究成果です。(矢向研究室)



PROFESSOR



多彩なキャリアと研究分野が重なり合って、 分野を横断する新しい挑戦が生まれる。

白坂 成功 研究科委員長/教授

15年間三菱電機(株)にて、宇宙開発に従事。2010年より現職。研究のみならず、研究成果の社会実装のために必要な多様な活動を実施。



多様性を活かす横断の専門性により
未来を創る

研究テーマ・学生指導方針

学術的な知見と現場の知見を融合した方法論の構築を通じて、より多くの人が未来を創ることに寄与できる研究をおこないます。特に、最新技術を社会の価値に変換するために必要な仕組みに関わる研究が中心となります。

メッセージ

多様性を活かす方法論によって未来を創ることを一緒に目指してくださる人をお待ちしています。

五百木 誠 准教授

三菱電機(株)で人工衛星システム設計、宇宙ビジネスの戦略立案等に従事。その後(一財)宇宙システム開発利用推進機構で国際協力と宇宙産業の海外展開促進を担当。2014年から現職。



俯瞰的思考で共に未来をデザインする

研究テーマ・学生指導方針

俯瞰的かつ多視点で物事を捉える力を養い、実践を通じたスキルを体得できるよう指導します。「学び方を学ぶ」姿勢を重視し、未知の分野でも迅速に知識を吸収し、課題解決に繋げる力を育成します。研究テーマは、一人一人の課題意識を重視して個別に設定します。技術や工学に限定せず、人材育成、組織、コンセプト設計など多岐にわたる分野をカバーします。

メッセージ

実社会のまだ明らかになっていない課題を一緒に見出し、その解決に向けて皆さんの成長を全力でサポートします!

猪熊 浩子 教授

EY新日本有限責任監査法人、東北大学大学院経済学研究科(会計大学院)准教授、武蔵大学国際教養学部教授(Parallel Degree Programme Education Centre University of London, LSE所管)を歴任。公認会計士(日本)。



経済社会システムの再設計で
持続可能な社会を創る

研究テーマ・学生指導方針

・資本主義の再定義・再構築、経済システムの仕組みの見直しとその社会実装。
・国境を越えて動く資金や企業活動に対応するための制度設計。
・ITガバナンスと第三者保証、分散型プラットフォームの監査・保証。

メッセージ

多様性にあふれた学生と、個性豊かな講師陣の環境で独自の研究領域を構築していきましょう。

慶應SDMは、大きな構想を描いて世界をリードしていける人材を育てること、そして現実世界の問題を解決していくことを重視しています。

そのため、教員陣には産業界出身者や海外経験豊富な人物など、狭い学問の殻に籠らない多彩な教員を揃えています。

社会のさまざまな側面を実体験してきた教員たちが学生を導き、サポートし、共に行動します。

それぞれのバックグラウンドや関心分野も幅広く、慶應SDM独特の壁のない知的交流のなかで、

さまざまな新しい研究や活動が生まれています。

当麻 哲哉 教授

慶應義塾大学大学院理工学研究科応用化学専攻修士、日米両国の3M社で新製品開発スペシャリストを20年勤務後に現職。博士(SDM学)、PMI公認PMP、2019-20年MIT訪問研究員。



分野横断型チームで
明るい未来づくりに挑戦する

研究テーマ・学生指導方針

情報通信、医療、教育、地域活性、組織、コミュニケーション、プロジェクトマネジメント等の社会課題に技術と人を結びつけた学際的アプローチで研究。修了時に「もっと研究したい」と感じてもらうよう指導しています。

メッセージ

多分野の知を結集して課題解決に挑み、社会的意義やイノベーションを目指す価値ある研究を楽しみましょう。

新妻 雅弘 准教授

慶應義塾大学大学院理工学研究科開放環境科学専攻修士、英国クイーンズ大学大学院後期博士課程(Ph.D)修了。立命館大学情報理工学部助教等を経てSDM専任講師に。2023年より現職。



従来とは違ったアプローチで
真の「生きる」を探究する

研究テーマ・学生指導方針

人工知能一般、バハハ筆跡と作品の変遷、身体知。従来の自然科学では見落とされがちな視点を捕うため、アートや仏教など古来から続く技法や思想体系を援用した社会コンセプト定義や課題解決アプローチの開発に取り組む。

メッセージ

テクノロジーが私たちの仕事を奪う現代において、あらためて私たちが生きる意味について、探求してみませんか?

西村 秀和 教授

動的システム制御の研究・教育から、モデルに基づくシステムズエンジニアリングの世界に転身。ビジネス、サービス、製品などを、システムとしてデザインします。



みんなと本気で考えて
取り組む未来づくり

研究テーマ・学生指導方針

人々がさまざまな営みを行う社会と技術との関係はどうあるべきか?自然環境、経営、金融、物流、交通環境、製品開発などにある課題を解決に導くために、人と社会と技術との相互作用を、UAF/SysMLを用いて考え抜きます。

メッセージ

大きな変革が求められている時代。より良い未来をつくるためにモデルを用いて一歩を踏み出してみませんか?

小木 哲朗 教授

1986年三菱総合研究所入社。1994年東京大学大学院博士課程修了、博士(工学)。1996年東京大学助教、2004年筑波大学准教授を経て、2008年より現職。



未来社会は予測するのではなく
自分達で創造する

研究テーマ・学生指導方針

ヒューマンインタフェース、VR/AR等の視点から、次世代の情報・通信・メディアシステムのデザインに関する研究を行っています。没入型ディスプレイ、アバターロボット等の技術研究から健康ライフログ、地域活性化等の社会応用まで、幅広い視点で研究を行っています。

メッセージ

現在の複雑化した社会をリードしていくために、いろいろな視点で物事を考えることができるマルチプレーヤーを育てます。

神武 直彦 教授

JAXAでのH-IIAロケットの研究開発やNASA・ESA(欧州宇宙機関)との国際連携を経て、2009年より現職。慶應義塾横浜初等部長などを歴任。SSIL代表理事。PMI公認PMP。博士(政策・メディア)。



領域・地域・世代を超え、
教育・研究・事業で世界へ

研究テーマ・学生指導方針

国内や海外での宇宙開発・教育・スポーツ・畜産・農業・街づくり・防災などあらゆる領域を対象に、多様なデータやAIを活用して将来の可能性やリスクを把握するシステムデザイン・マネジメント学に関する研究を推進。

メッセージ

現場を大切にFail Fast・半学半教マインドで俯瞰的かつ緻密な視点で世界的なことに挑戦しましょう。

水門 善之 准教授

野村證券金融経済研究所シニアエコノミスト、データサイエンス部長を経て現職。ミシガン大学経営大学院修了MBA。東京大学大学院博士課程修了、博士(工学)。



数理とデータを駆使して
社会経済のシステムを解明

研究テーマ・学生指導方針

経済活動や社会事象を反映した、人々や企業の行動に関する数理・データ分析を扱います。また、定量的なアプローチに加えて、文献調査やディスカッション、足を使った取材等、定性的なアプローチも重視します。

メッセージ

社会・経済・金融等、日々ダイナミックに変化するシステムの最先端を一緒に解明していきましょう!

矢向 高弘 教授

慶應義塾大学理工学部にて25年間勤務後、SDMに着任。符号理論、画像処理、データ解析、人工知能、デジタルトランスフォーメーションなどを専門とする。博士(工学)。



社会課題の解決に資する
知的システム創りに挑む

研究テーマ・学生指導方針

AIによる3Dモデル生成、生成AIを活用した知識共有・継承、生成AIを活用したヘルスケア、処方データ分析による有害事象検出、構造化情報のデータ拡張手法、物流のDX、教育のAIトランスフォーメーション

メッセージ

急速に発展するデジタル技術を習得し、信頼性を見極めて、有効活用するスキルを身につけていきましょう。

山形 与志樹 教授

東京大学教養学部卒、国立環境研究所で気候変動研究に30年間従事。IPCC代表執筆他を兼務。現在、持続可能な都市システムのデザインについて教育・研究。



環境と健康が好循環する
未来社会の共創

研究テーマ・学生指導方針

都市における気候変動の緩和と適応、ビックデータを解析する都市情報の分析・可視化、デジタルツインによる都市・地域の持続可能性シミュレーション手法の開発。

メッセージ

未来の都市システムのデザインを共創し、持続可能な社会の構築に貢献しましょう。

VOICE FROM ALUMNI

システム×デザイン思考の運動神経を鍛えるプロセス

入学当時、地理空間情報のコンサルティング企業で全国の自治体に対する提案型営業を推進し、あわせて管理職として人材育成を任される立場でした。全国の拠点担当者が持つ暗黙知を形式知に変換し、ナレッジとして流通させる人材育成の手法を研究したいという思いで門戸を叩きました。

入学後すぐに、それまで凝り固まってきた考え方や価値観を、多様な仲間・先生方という大きなハンマーで打ち砕かれたことをよく覚えています。それこそ自分自身の「Break the bias」の第一歩でした。

在学中、私が最もエネルギーを注いだ授業が二つあります。

一つ目は、デザインプロジェクトです。100日以上にわたり、企業から示される課題解決に向け、イノベーション創出のための思考法・手法を適用し、チームでの発散・収束といったアイデア創出を繰り返します。SDMの共通言語で表現するならば、多視点から構造化・可視化しながら

対象のコンテキストを時間軸・空間軸・意味軸で俯瞰し、ターゲットとなる課題に目的志向でアプローチする、ということです。「意味軸で俯瞰?」、初見では何のことやら、でしょう。ここに「具体と抽象」のエッセンスが与えられます。「What」を考えると、抽象度の高い上位目的の「Why」を見据え、具体の「How」を検討する。この抽象度のコントロールを身に付けることがSDMの醍醐味です。小難しく聞こえるかもしれませんが、一度体で覚えてしまえばそれがごく当たり前の日常になる感覚です。

二つ目は、学生がワークショップを設計し、一般の方に向けてファシリテーションを実施する「イノベーションのためのワークショップデザイン論」です。ゴールに向けて、発散・収束という参加者の思考の流れをデザインする方法を習得します。他人の思考の流れをデザインすることは、ビジネスプレゼンで聴衆の反応をデザインすることにも直結する、とても実用性の高いスキルとなります。



繁田 啓介

2020年3月修士課程修了

これらは、まさにシステム×デザイン思考の知的運動神経を鍛える格好のプロセスであり、修了後の礎となっています。

最後に、慶應SDMの価値をひとことで表すならば、それは「人」だと答えます。先生方はもとより、高い視座を持った同級生・先輩・後輩との関係は、かけがえのないものになるからです。

宇宙産業の未来を切り拓く:SDMで学んだ思考と実践

急速に発展する宇宙産業に魅力を感じ、文理横断的に産業成長のための仕組みづくりに貢献したいという想いから、大学(法学部)卒業後、JAXAに新入社員として入社すると同時に慶應SDMに入学しました。入学当初は、仕事と学びを両立できるか不安もありましたが、今振り返るとその決断は正しかったと実感しています。

SDMでの学びの最大の価値は、どんな問題に直面しても、曖昧さを許容しながら「最後はなんとかなる」という前向きな姿勢を身につけられたことです。最近の宇宙業界や所属組織では多くの変化が起きており、私自身も組織改革や民間企業との新事業創出などの現場で、自分たちで問題を定義し、答えを模索・実行する必要に迫られています。そんな中、SDMで培った「問いを立てる力」や「多視点からの構造化・可視化の技術」が非常に役立っています。

価値創出のために、各々の経験・知識・能力を引き出して共通認識を揃えていきながら、最後は皆で何とかなると前向きに思えるように日々努めていますし、そうしたスキルやマインドをSDMで学ぶことが出来たのは凄く良かったと思います。入学前は、システム×デザイン思考やシステムズエンジニアリングはあらゆる課題に対する万能な解決策だと思っていました。しかし、実際にSDMで学んでみると、手法を知っているだけでは価値は生まれず、何のために活用しどれだけ実行できるかが重要であると痛感しました。SDMは、その答えを見つけるための機会を提供してくれ、同じ志を持つ仲間とともに成長し、自分の視野を広げ新たな可能性を切り拓く貴重な環境であり、新卒であっても既に社会人経験があっても、2年間で得られる経験はかけがえのないものだと感じています。



岡本 直樹

2023年3月修士課程修了

夢の実現への力となるSDMの学び

娘の高校受験を前に子育てが一段落することが見えてきた時に、自分自身も楽しみながら、より社会や周囲に貢献できることをしたいと、今後について考えるようになりました。せっかくなら大学院でしっかり学んで今後にしっかりつなげたいと考え、「社会システム」を学べる大学院を探し慶應SDMにたどり着きました。大学院入学を決意することは簡単なことではありませんでしたが、入学相談の際に担当してくださった先生が、私のアイデアを聞いて「ぜひ一緒にやろう!」と仰ってくださったことが背中を押してくれました。慶應SDMに入り、社会システムや様々な手法について学ぶことで、生きたシステムを生み出し育てていくための様々な視点や技術が得られることを実感しています。手法を使いこなし、社会をシ

ステムとして捉えた上で変化を促す試みをデザイン・実践することは簡単ではありませんが、仮説が間違っても得られた結果を基に改善すればいいという安心感を持って前に進むことができている。

留学制度(ケンブリッジ大学)を利用し、2018年にイギリス政府が策定した「A connected society - A strategy for tackling loneliness」についての調査を行っています。その中でも、システムを俯瞰的に理解する力の重要性を実感しています。

また、慶應SDMで多様かつ専門性の高い多くの仲間・先輩・先生方に会えたことは大きな助けとなっており、現在は、慶應SDMでの学びを生かし、より笑顔でいられる社会の実現に向けて歩みを進めています。



佐竹 麗

2020年3月修士課程修了



須賀 健斗

2020年3月修士課程修了

2018年に中央大学の総合政策学部を卒業後、すぐ慶應SDMに入学しました。なぜ慶應SDMにしたのかといえば、まずは実学的であること。それにもう一つ、考えるためのスキルが欲しいと思ったからです。学生時代にある

人の中で生きていくことの大切さを学ぶ

企業でインターンをしていた時、新しい何かを考える際のスキルは意外に属人的であり、職人技的な部分が非常に多いということに気がきました。そこで、僕自身も道筋を立てて考えられるようになりたい、その考えるスキルが欲しいと思ったのです。

実は、大学に入っても学部の勉強はまったくしていなくて、4年間ずっとインターンをしていました。それは、人生変えようと思ったからです。最初はきつかったですね。ノルマはなかったものの、テレアポはもちろん、仕事は自分で取らなければいけませんでした。一人で営業に行ったり、企画を考えたり、時にはそれが通ったりするのを体験するうちに、何かを考えて、提案して、それが実現した時のうれしさを知りました。そして、そうした経験が自分を変えら

れると気付かせてくれました。実際、自分の意思を持って考えることが増えたと思います。慶應SDMに入ったのは友人が通っていたからですが、ここに入ってわかったのは、どれだけ頭で考えても結局はそれを実行できるかどうかのカギになるということ。リアルかどうか大事なんですね。慶應SDMではいろいろなプロジェクトに携わりましたが、最終的にうまくいくのもうまいかないのも、その人に帰するところが大きい。研究をするにしても、データを集めるにしても、やはりいろいろな人の協力を得たり、紹介を経てできることって多いのです。大学院を選択するのはある意味プレッシャーです。でも、恐れずに選択する価値が慶應SDMにはあるんじゃないかと僕は思っています。

VOICE FROM ALUMNI

「Why?」からはじまる好奇心のアップデート ——SDMで得た最大の価値

「なぜこうなっているんだろう?」「どうしてだろう?」ささいなことにも関心を持ち、それを突き詰めようとする習慣が、SDMでの学びを通じて大きく磨かれました。

私は現在、株式会社三菱総合研究所で新規事業開発に携わると同時に、研究活動として修士論文を基にJournal Paperを執筆し、さらに北陸先端科学技術大学院大学の後期博士課程で学びを深めています。このように業務と研究の両立を実現できている背景には、SDMで培った「好奇心」があります。

SDMに入学する以前の私は、業務の中で目の前のタスクをこなすことに精一杯で、新しい知識や情報を学ぶ余裕がなく、「このままでは良くないな」と漠然とした不安を抱えながら過ごしていました。そんな時に、SDMを知り、「ここに入学したら自分は変わるんじゃないか」と期待を抱きながら、入学したことを覚えています。SDMでシステムズエンジニアリングや

デザイン思考を学ぶことで、自分の中にあった学びのスタイルが大きく変化し、問い続ける力が身につきました。

この姿勢は、現在の仕事においてとても役立っています。シンクタンクの業務では、複雑な社会課題を分析し、仮説と検証を繰り返しながら顧客のニーズに応えるソリューションを提供することが求められます。SDMで培った学びは、こうした業務の質を高める大きな経験となりました。

また、自身の研究でもこの学びが活きています。SDMでは「デザインプロジェクト」など異なるバックグラウンドを持つ仲間とのディスカッションを重ねる授業が多くあります。この授業によって多角的な視点を持つ重要性を学びました。異なる意見に耳を傾けるためには方法論が必要だと実感しました。自分ひとりでは到達できない質の修士論文ができたことは一生の思い出です。現在も博士課程での研



本橋 萌

2021年3月修士課程修了

究を進める中で、多様な視点を尊重し、知を探求しています。

SDMでの学びは、新たな知識の獲得にとどまらず、業務や研究でも応用することができる自身の課題解決スキルの礎となっています。これからSDMに入学する皆さんへ。ぜひ一歩前に挑戦してみてください。前向きな決断を応援しています!

多様性がもたらす革新： SDMの学びをビジネスの現場で活かす

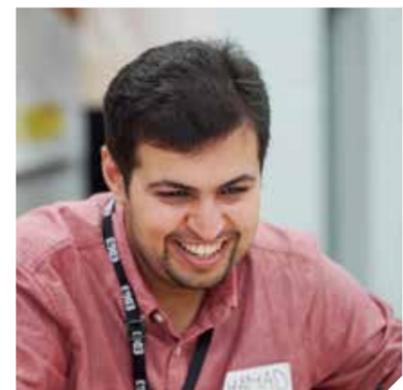
SDMを修了して、真のイノベーションやインパクトのある問題解決は、多様な視点の融合から生まれるのだと実感しました。中国、日本、マレーシアで多くの時間を過ごしたので、当初は幅広い文化を理解をしていると思っていました。しかし、SDMで、さまざまな業界、年齢、文化的背景を持つ専門家やエキスパートと出会い、自分の思い込みを再確認するようになりました。彼らのユニークな考え方は、私の経験をさらに広げ、特に複雑な現実問題の解決策を設計する際には、主観的でありながらも共感的な視点を持つことの重要性を気づかせてくれました。SDMのアプローチは、論理的な構造(「システム」)だけでなく、真のイノベーションのきっかけとなることが多い人間の経験や感情的なニュアンス(「デザイン」)の側面)も考慮することを私に教えてくれました。私はIBM(グローバルチーム)のタレントソーシングスペシャリストとして働き始めてまだ4ヶ

月です。入社当初から、アメリカ、シンガポール、中国の関係者とグローバルなデザインワークショップに積極的に参加しました。テーマは、私のチーム(日本チーム)における異文化ソーシングの課題、すなわちリクルーターとマネージャー間の不明確なコミュニケーション、および日本戦略の不整合について取り込むことでした。ステークホルダーの抱える問題をマッピングすることで、リアルタイムの市場洞察や、日本独自の労働環境に合わせたコラボレーションプロトコルなど、解決策を共同で創出しました。SDMの方法論であるデザイン思考、システム視点、そしてコラボレーションは、グローバル経営と現場の現実を一致させ、日本市場での競争力を高める上で非常に有益なものでした。



エン ミシェル

2024年9月修士課程修了



エルギブレン ハマド

2017年9月修士課程修了

日々の課題を処理する脳の働き方を 根本的に変えてくれたSDM

私が慶應SDMに出会ったのは、学部を卒業して1年後のことでした。慶應SDMは、ユニークで相互に関連した総合的な知識と実社会での応用の可能性を提供してくれました。このプログラムを最大限に活用するため、私は入学前にまず運輸部門で実務経験を積むことにしました。驚いたことに、SDMは私に幅広い知識(政治経済から起業家精神まで)を与えてくれただけでなく、私という人間や、日々の課題を処理する脳の働き方を根本的に変えてくれました。

SDMの経験を受け入れることは、あなたの脳を、部分だけでなく全体を見る本来のシステムの能力にリセットすることです。何段階もの抽象化を経て、すべてがどのように

統合されているかを多角的に見る技術を学ぶことができます。そして何よりもSDMは、それを受け入れる人たちの子どもらしさを取り戻し、イノベーションを可能にする必須の行動として、人間の内なる遊び心を解き放ちます。あれから10年近く経った今でも、私はSDMの成果を胸に刻み、毎日活用しています。SDMの教授、同僚、友人、そして日本での経験から得た洞察は、自分自身や他者の視点をよりよく理解する上で非常に貴重なものとなっています。

本当に、慶應SDMに投資することは、自分を変えることに投資することなのです。



シムバ ナオミ

2022年3月後期博士課程修了
2018年9月修士課程修了

価値のある学びはすぐそこに

私は母国ザンビアで電気工学の学位を修めました。現在のように変化の激しい時代には、電気工学の分野の知識と、その他の分野の知識を上手に統合する方法を学ぶ必要があると思っていました。以前「システムデザインとマネジメント」の概念について聞いたことがあり、いろいろと調べていると慶應SDMにたどり着きました。その後、文部科学省の実施する外国人留学生制度で2016年の9月に慶應SDMの修士課程に入学しました。現在、私は後期博士課程の学生ですが、いずれの課程も、当初の期待を超えて素晴らしいものです。慶應SDMでは講義・研究を通じて問題解決能力を鍛え、多くの実務経験を手に入れることができます。修士課程では、講義に関する勉学と研究の両立が求められていました。研究を通じてカンボジアの人々の生活を変え

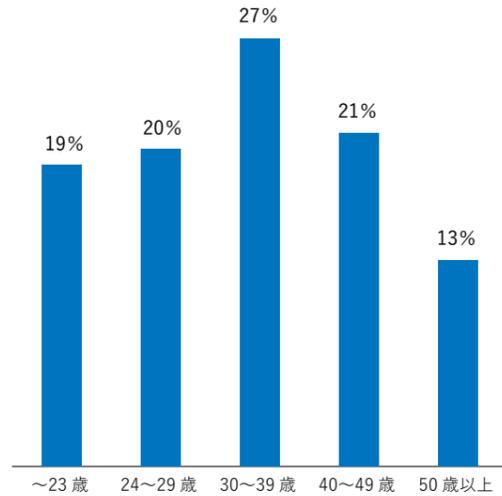
ることに貢献できて充実していましたが、時間管理がとても難しかったです。現在の後期博士課程では、自身の研究領域に新しい価値を加える様なユニークで前例のない事柄を探し続けているので違う大変さを味わっています。

慶應SDMで学生が取り組む研究内容は実に様々で、多様性に富んでいます。グループで課題に取り組む時間も多く、お互いの研究へコメントをします。ここでは、講義をただ聞いて、書き写すというのではなく、過程を理解し、プロジェクトなどに取り組み、アウトプットしていくことが重視されます。誰もが世界中、どこにしようとも、クリックひとつで慶應SDMへの扉を開くことができます。ユニークな方法で学ぶ挑戦をしたいのであれば、私は迷うことなく慶應SDMを勧めます。



SDM は高い志と熱意を持った者が化学反応し融合する場です。これが SDM の最大の魅力です。
幅広い年齢層の学生でかつ、様々な専門分野で既に何らかの実績を持った意欲ある人たちが多く集まっているのです。
分野横断のための方法論と人的な多様性が「横断の専門性」を可能にしています。
学生たちは、お互いを触発し合い、励まし合い、学び続けることによって、思ってもみない成長を遂げます。

年齢分布



新卒・社会人比率

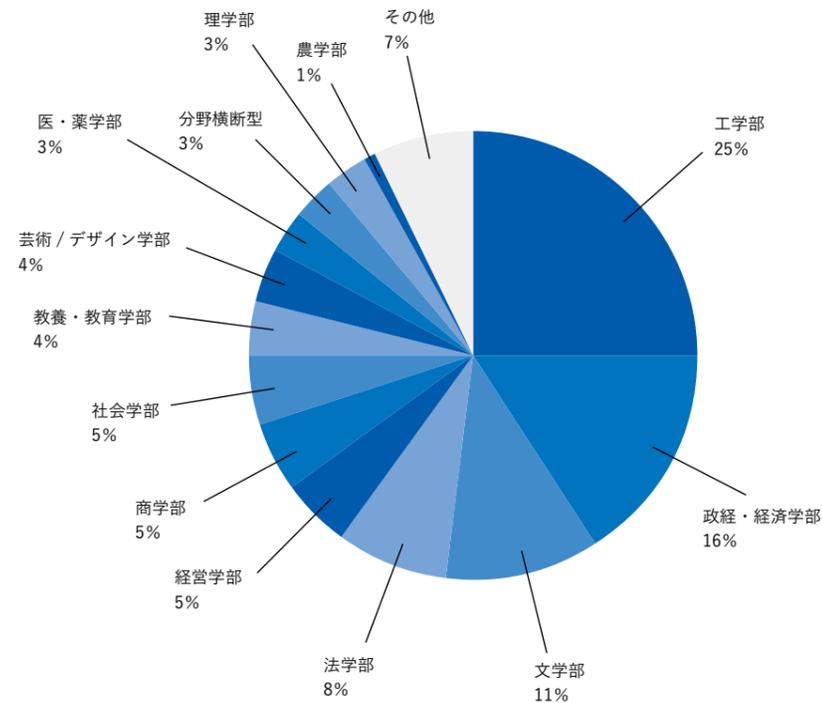


※新卒には、実務経験年数が3年未満の社会人も含まれます。

日本人学生・留学生比率



出身学部



※すべて直近5年の修士学生データ



留学実績

大学名	留学者数					
	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
デルフト工科大学	派遣3名 受入2名	受入1名	-----	派遣1名 受入5名	派遣1名 受入7名	派遣1名 受入6名
フランス理工科大学(INSA) トゥールーズ校	-----	-----	-----	受入2名	受入2名	受入3名
ミラノ工科大学	派遣1名 受入2名	受入2名	派遣3名	派遣1名 受入4名	派遣2名 受入3名	派遣1名 受入2名
バドュー大学	派遣1名	-----	-----	-----	-----	-----
ケンブリッジ大学	派遣1名 受入1名	受入1名	-----	派遣1名	派遣1名	派遣1名
チュラロンコン大学	-----	-----	-----	-----	派遣1名 受入1名	-----

慶應 SDM は設立当初、システムズエンジニアリングの先端研究を行っているマサチューセッツ工科大学、デザイン思考で知られるスタンフォード大学を始めとする海外の大学と共同で「デザインプロジェクト」等の科目を作りました。その後も海外から教員を招聘するなど連携を継続しています。

留学体験談

阿久津 朋宏

2024年3月修士課程修了

オランダ・デルフト工科大学



私は会社員を経て、フルタイムの学生としてSDMに入学しました。修士1年生の秋学期をオランダのデルフト工科大学で過ごし、TPM (Technology, Policy and Management) 研究科 CoSEM (MSc Complex Systems Engineering and Management) コースに在籍していました。留学では積極的に多くの授業を履修しました。もともと興味があった分野の授業のほか、日本国内では本格的に学べる機会の少ない授業や、他の研究科の授業も受けるなど、自分の視野を広げるよう努めました。異なる文化や考え方もつ学生が世界中から集まり交じり合う環境で、学び、ディスカッションし、共同で課題に取り組み

たのは計り知れない財産になったと思います。現地での授業に加えて、SDMの同期生たちと課外プロジェクトに取り組んだり、SDMの指導教員から指導を受けたりといった機会もありました。日本で生活する方々と話す時間帯は、時差の関係で、主にオランダの現地時間の朝から昼(日本時間の夕方から夜)が多かったです。SDMに社会人学生として入学し、留学を希望される方も、留学先での生活やタイムマネジメントを工夫すれば、十分に日本とのコミュニケーションはとれる環境だと思います。ぜひ海外留学の機会を活かし、新たな世界と学問の探求に挑戦していただきたいです。

葭葉 未来

2024年3月修士課程修了

イタリア・ミラノ工科大学
イギリス・ケンブリッジ大学



私は、イタリアのミラノ工科大学とイギリスのケンブリッジ大学にSDMの制度を使って留学しました。イタリア留学は、修士1年目に6ヶ月間、会社を休職して滞りました。4時間通して行う授業や、授業中に自由にコーヒーブレイクを取ったり、アクティビティ中心で授業を進めたりといった新鮮な学習スタイルに触れることができました。特に「Design Thinking for Business」クラスでは、デザイン思考の第一人者であるロベルト・ベルガンティ教授のフレームワークを使い、イタリア企業と連携して革新的な解決策を生み出す経験を得ました。イタリアの美しい街並み、美味しい食文化に囲まれ、非常に充実した時間を過ごしました。

イギリス留学は、修士2年目に1ヶ月間、会社でGlobal Mobility制度(一定期間海外から業務を遂行する制度)を取得し、青井交換留学奨学金賞(Aoi Global Research Award)による奨学金給付を受けて、ケンブリッジ大学に留学しました。この留学は研究留学で、授業は履修せず、修士研究に関連する教授たちにインタビューを行い、図書館などの施設を利用しました。私の当時の研究テーマは「日本の中高大学生の知的リスクを取る意欲向上を促す手法の開発」であったため、現地では工学部、教育学部、リスク研究の専門家にアドバイスや意見をもらいました。12月のケンブリッジは寒く、毎日雨が降っていましたが、美しい街並みと整備された交通機関の中で、快適に研究に集中できました。



受験・入学案内

設置研究科・専攻	募集人員	授与する学位
システムデザイン・マネジメント研究科	修士課程 77名	修士(システムエンジニアリング学) 修士(システムデザイン・マネジメント学)
システムデザイン・マネジメント専攻 (修士課程/後期博士課程)	後期博士課程 11名	博士(システムエンジニアリング学) 博士(システムデザイン・マネジメント学)

<参考> 2025年度学費

(円)

	在籍基本料	授業料	学生健康保険互助組合費	合計
修士課程	60,000 (30,000)	1,920,000 (960,000)	2,600 (1,350/1,250)	1,982,600 (991,350/991,250)
後期博士課程	60,000 (30,000)	1,140,000 (570,000)	2,600 (1,350/1,250)	1,202,600 (601,350/601,250)

※学費は春学期・秋学期に分けて納入することができます。

※学費等は必要に応じて改定される可能性があります。

※()内は分納の場合。

入試時期(修士課程・後期博士課程)

	I期	II期	III期
事前審査期間	4月上旬頃	9月上旬頃	12月上旬頃
Webエントリー期間/出願期間	5月上旬頃～5月下旬頃	9月中旬頃～10月上旬頃	12月下旬頃～1月中旬頃
2次選考	6月中旬頃	10月下旬頃	2月上旬頃

各期の入試の前に研究科説明会を2回ずつ開催します。

最新の情報を取得するために参加することを推奨します。

教育訓練給付制度(専門実践教育訓練)

慶應義塾大学大学院システムデザイン・マネジメント研究科 修士課程のリサーチ インテンシブコースおよびラーニングインテンシブコースは、厚生労働大臣から、専門実践教育訓練給付金の対象講座の指定を受けています。これにより、支給要件を満たす場合には、本人がハローワークに申請することにより、本学に支払った教育訓練経費の一部が教育訓練給付金として支給されます。入学前に手続きが必要です。



慶應義塾大学大学院 システムデザイン・マネジメント研究科

〒223-8526 神奈川県横浜市港北区日吉4-1-1

E-mail: sdm@info.keio.ac.jp



<https://www.sdm.keio.ac.jp/>



紹介動画

2025.4

